

技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

指導者 今井 暁菜

日時 平成30年11月17日(土) 第3校時(13:15~14:05)

年組 中学校第1学年1組 計20名(男子10名, 女子10名)

場所 中学校家庭教室

題材 食から防災を考える

題材について

本題材「食から防災を考える」について、台風や地震によって日本中に被害が大きくなっている今日、われわれの日常生活で災害は避けて通れないことである。大きな災害が起きた際、電気・ガス・水道・通信・交通などのライフラインが復旧するには、一般的に3日間と言われている。非常食は最低3日分、余裕があれば1~2週間分備蓄しておくことと安心である。しかし実際に家族全員が食べる1週間分の備蓄を用意することは困難である。その為、家にある食品で非常食を作ることが必要であると考えられる。

本学級の生徒は、家庭科の学習に対する意欲は高く、物事にまじめに取り組むことができる。本校の生徒は幸いにも災害によって避難生活を送っているなど被害が深刻な地域に住んでおらず、災害直後にアンケートを行った2学年では避難場所に行った人はいなかった。災害の被害が少なかったうえに、時間が経つとどこか他人事のように感じた。一方災害直後では、道路が寸断し、スーパーでは品薄状態が続き、食品を買い求め色んな地域に出向いた人など「食」に関して、苦労した人が多くいた。

そこで指導にあたっては、はじめは7月豪雨について振り返り、災害の悲惨さを思い出させる。さらに本校には大学から支給されている備蓄がある。(図1) その備蓄してある市販の保存食(図2)と同じタイプのものを試食し、非常食の特徴を知らせる。備蓄されている食品は、主に水・保存食(株式会社サタケのマジックライス6種類)である。これを本校の小学校と共に使用することになっているので、備蓄されている食料の量を見ると3日はもたないと考えられる。次に災害を想定し条件をもうけ、課題に取り組ませる。この学級は栄養素の特徴は履修済みである。その為、今回は食生活の分野から防災意識の向上を図っていきたい。具体的には、「非常食」に目を向けて、どのような食材が非常食になるのか、また災害が起きたときにどんな料理ができるのかというのを考えていきたい。私たちの小さな知恵が生きる道に繋がるのを実感してもらいたい。災害が起きたときに想定される条件をクリアする非常食を提案し、その提案に対して意見を出し合う。そこからより簡単で、中学生の栄養面を満たし、衛生面にも配慮できている非常食を考えられた班の意見を取り入れて実際に調理実習を行う。身近な食材でできる非常食を考え作ることによってより実感してもらいたい。さらに、次に災害が起きたときに今回学んだ知識及び技能を用いて自分だけではなく家族や身近な人を「食」から助ける役割となってもらいたいと考える。



図1 本校の倉庫に置いてある備蓄



図2 保存食

指導目標

1. 非常食について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫することができるようにする。
2. 様々な非常食をみることで非常食に込められた工夫について自分の考えをもつことができるようにする。

指導計画（全8時間）

1. 災害（平成30年7月豪雨）を振り返る …………… 1時間
2. 非常食の特徴を知る・課題発表 …………… 1時間
3. グループ学習〔ネット検索&課題学習〕…………… 2時間
4. 全体交流 …………… 1時間（本時）
5. 調理計画，調理，振り返り …………… 3時間

本時の目標

災害の影響で電気・水道・ガスが途絶える状況のなか、知恵や技術を用いて非常食を考えることを通して、非常食に込められた工夫について自分の考えをもつことができる。

学びを豊かにするための手立て

新学習指導要領で求められるように、知識及び技能を生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な活動として設定している。また、解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、他者との意見交換などを通して、多角的に検討できるような授業構成にしている。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（◆評価）
<input type="checkbox"/> グループごとに調べてきた内容を確認する。 → 前時に、5グループに分かれて家にあるもので作れる非常食を探究している。	<input type="checkbox"/> 4人班の指定した席に座らせる。 <input type="checkbox"/> プリントを配付し、発表の仕方を伝える。
<input type="checkbox"/> 災害を想定し、以下の条件を満たす非常食を班ごとにまとめたものに対して、各自付箋を貼る。 【条件】 <ul style="list-style-type: none"> ・電気・ガス・水道が使えない。 ⇒水とガスコンロは準備している。 ・季節は夏。 ・家で避難している。 ・4人家族の一食分を考える。 ・準備・調理・片付けで使用できる水の量を1L以内とする（4人分）。 ・市販で売られている非常食はない。使用できる食材から考える。 <input type="checkbox"/> 付箋に書かれた仲間の意見を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・衛生面では、不十分だと思う。 ・中学生の栄養を満たすには十分ではないと思う。 ・ポリ手袋を使うなど衛生面にも適していると思う。 <input type="checkbox"/> 課題解決に向けて話し合う。 <input type="checkbox"/> 意見に対する回答を用いて、班ごとに発表する。	<input type="checkbox"/> まとめられた模造紙を見て、批判的意識を持たせ、より良い考えを付箋に書かせる。 <input type="checkbox"/> 衛生面や中学生の栄養を考えるように呼びかける。 <input type="checkbox"/> 質問や意見を積極的に行うようながす。 ◆非常食に込められた工夫について自分の考えをもつことができる。 【生活を工夫し創造する能力】 <input type="checkbox"/> 仲間の意見を聞いた上で、もう一度班で課題解決に向けて話し合わせる。